

天竜高校の生徒が国有林で就業体験をしました

令和6年7月8日（月）、7月9日（火）の2日間、天竜高校森林科学類型の2年生、2名が当署管内で就業体験を行いました。天竜高校の就業体験は古くから行われておりましたが、昨年度からは天竜森林管理署でも実施するようになりました。

今回は森林官の業務をメインに体験してもらうこととし、初日は岩田署長から天竜署と林野庁の概要や採用情報についての説明を受けた後、郷土の偉人である金原明善翁が植栽を行った瀬尻国有林に移動しました。道中、「ここは日本じゃないみたい」と林道から眺められる美しい人工林の景色に驚いていました。

最初はスギ特定苗植栽箇所では成長量調査を実施しました。令和4年度の春に植栽した林齢3年生のプロットでしたが、中には樹高約3mに成長した苗木があり、「スゲー。成長早っ」と驚いていました。

その後、獣害対策として設置しているシカ柵や捕獲等の説明を真剣に聞いた後、くくりわなの模擬体験では目を輝かせて取り組みました。



ドローン操作体験の様子



成長量調査の様子

初日のメインイベントとなったのは「無人航空機によるシカ柵点検」でした。職員が一通りドローンによるシカ柵点検を行った後、各々が実際にドローンの操作しました。「楽しい。」「欲しい。」「感激しつつ、「効率的な新しい林業」を体験しました。

2日目は、掛川森林事務所部内の国有林において、電動刈払機の操作体験と境界予備調査を実施しました。エンジン式の刈払機は学校で実習の経験はあるとのことでしたが、電動刈払機は「振動がなく操作がしやすい。」と感激していました。

その後、御料林時代から続く国有林野の境界管理についての説明を受け、御影石の境界標が数多くある境界延長約2kmについて調査しました。生徒2人で協力して、すべての境界標の泥を落とし、赤スプレーを塗布し、見出し票を書き直しながら、野帳を記入してもらいましたが、明治時代に山頂まで石標を運んできたことや、長年にわたり境界標の保全を続けてきたことに驚いていました。



2日間、猛暑の中での就業体験となりましたが、体調を崩すことなく、無事に終了することができました。

この経験をもとに、国有林を身近に感じてもらい、学校に戻って他の生徒たちに伝えていただき、職業に就く際、林野庁を選択先のひとつとして考えていただければと思います。